

会議録

1 附属機関の名称

犬山市観光戦略会議

2 開催日時

令和7年8月20日（水）午前10時00分から正午まで

3 開催場所

市役所 401 会議室

4 出席した者の氏名

- (1) 委員 西村幸夫、石田芳弘、服部敦、太田里奈、岡田雅隆、高橋秀治、
河治豊弘、柴田浩行、久世高裕（順不同・敬称略）
- (2) 執行機関 小池経済環境部長、伊藤観光課長、桃原観光課長補佐、
小澤観光課主査補

5 議題

1. 観光戦略の概要説明

2. 観光戦略の進捗状況について

- ① KPI の進捗 _____ 資料2
- ② 施策全体の総括 _____ 資料3
- ③ 個別施策の進捗 _____ 資料4

3. 意見交換

4. その他

6 傍聴人

1名

【配布資料】

資料 1 犬山市観光戦略会議 委員名簿（令和 7 年 8 月 2 0 日 現在）

資料 2 犬山市観光戦略 KPI 進捗状況 一覧表

資料 3 施策の総括表 進捗管理シート

資料 4 犬山市観光戦略 施策別シート

7 内容

事務局

皆さんこんにちは。

本日はお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまより、令和7年度犬山市観光戦略会議を始めさせていただきます。

私、犬山市観光課課長を務めさせていただいている伊藤と申します。よろしくお願いします。

令和4年3月に完成しました犬山市観光戦略について、策定時には貴重なご意見やご助言をいただき、誠にありがとうございました。この戦略は、犬山観光の魅力向上と持続可能な観光まちづくりを目標にして、重点プロジェクトを中心に様々な施策を展開しています。策定から3年が経過しておりますが本日は昨年度に引き続き、犬山市観光戦略の各種施策の進捗報告をさせていただくとともに、内容をご確認いただき皆様からご意見等を頂戴したいと思います。

続きまして、事務局側の紹介をさせていただきます。まずは経済環境部長 小池でございます。

事務局

小池でございます。皆さん、改めましておはようございます。

本日は本当に暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。

私は、昨年度まで観光課長をやっております、この観光戦略会議にはひと際強い思いを持っております。ここにいる皆様方から本当に熱心なご助言いただいて計画が完成し、まだ道半ばではございますが一生懸命施策を進めているところでございます。

本日皆様から貴重なご意見を頂きまして、これをさらに施策に生かしていくという非常に貴重な場だと思っています。1年に1回こうしてお集まりいただいて、お話をさせていただくのはわくわくするとともに、一生懸命務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

犬山市観光課長の伊藤といいます。

どうぞよろしくお願いします。

続きまして、観光課長補佐の桃原です。

事務局

観光課長補佐の桃原といいます。よろしくお願いいたします。

事務局

続きまして、観光課主査補の小澤です。

事務局

担当の小澤です。よろしくお願いします。

事務局

本日の会議ですが、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。

会場の都合上、長くても2時間、12時までには終了させていただきたいと考えておりますので、あらかじめご了承くださいと思います。本日は委員総数11名中、9名のご出席をいただいております。委員の過半数の出席がありますので会議が成立していることを報告いたします。本日の会議は、公開で開催されます。事前にホームページ等で傍聴人の募集をしましたところ、本日は傍聴はなしということですのでよろしくお願いいたします。会議の内容については、後日資料と会議録をホームページで公開する予定となっておりますので、あらかじめご了承ください。

会議録につきましては、2人の委員が署名することとなっております。本日はご出席いただいている委員のうち、太田委員と高橋委員の2名にご署名をいただきますので、よろしくお願い致します。

ここで資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

事務局

それでは、議事に入らせていただきます。

まず初めに西村会長より、ご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願い致します。

西村会長

おはようございます。

先ほど小池部長からありましたように観光戦略は令和2年から3年にかけて2年間かけて作って、その時のメンバーがそのまま進捗管理ということで戦略会議のメンバーとして集まっています。今日は丸3年が経ってこの3年間の経過を報告していただきます。後で報告ありますがKPIもが想定よりもかなり上回っているものが多くて犬山がすごいというだけでなく観光のフェーズが変わってきたのかもしれないので、そもそもこのフレームがそのまま一応20年を見据えてこの10年を議論するという事で策定しましたが、これでいいのかということもあると思いますので、そこも含めて議論していただきたいです。今日は特に何かを決めるってことはないので自由にご意見いただければと思います。

事務局

ありがとうございました。これ以降の進行は会議規則に従いまして西村会長をお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

西村会長

それではまず、事務局から進捗状況2～4をまとめて報告していただいて、あとはご自由にご意見をお伺いしたいと思いますので、よろしくお願いしま

す。それでは事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

事務局

続いて資料3にある1枚目、施策の総括表をご覧ください。

こちらですが、観光戦略に施策の総括表を掲載していきまして、令和6年度に犬山市全体で実施した内容を掲載しています。

チャレンジ施策するだけで全66項目あるため、すべて説明することは割愛して具体的な内容は資料4の説明時に紹介させていただきますが、せっかく本日委員の方々にお越しいただいておりますので、石田委員と服部委員が取り組まれている内容についてご紹介いただけたらと思います。

まずは石田委員ですが、1枚おめくりいただいて7項目にあるチャレンジする施策は多様な宿泊形態の実現で、民間による宿泊施設開業に伴う支援というもので4月にオープンした「宿SHUKU」のことについて、ご説明をお願いします。

石田委員

これは西村会長が犬山城下町の流れを作っていたところから派生してきました。犬山は登録文化財の建物が明治村も含めて愛知県内の7割以上を占めるような町です。その中で一番伝統のある荳蔘酒です。その屋敷は交渉してホテルにしていいますよと。それからもう1つは犬山初代市長の真野さんのお屋敷。この2つで合計すると8室宿泊するようにできたのでスタートいたしました。改築費の総額大体6億の半額ほどを観光庁の国庫補助で賄うことができました。今、役所で金が溜まっているのが観光庁で、日本から出て行く観光客や入ってくる観光客に税金をかけるわけですから、潤沢なお金があると聞いたのでその部分からね。これは市も一体になって、市長が東京に行って直接交渉してくれたこともあり、思ったように進みました。あとの半額は銀行です。それから、今日皆さんに私からご報告したいことは商工会議所を中心にしてそれぞれ回りました。高橋会頭のご支援が一番大きかったわけですがいい計画だよと、犬山らしい計画であるということで30人ぐらいのほとんどの人が出資金を喜んで出していただいた。本当に嬉しかったです。犬山の文化のために、昼の新しいお店ばかりじゃなくて夜もうちょっと。太田委員がいらっしゃいますけど、名鉄のキャッチフレーズのオーセンティック、本物の求めてという市民がいたんです。そういう人たちが、非常に好意的に株主になったり、社債で応援していただいてスタートすることができました。やっぱり市民の支援。市民が何を望んでいるかということのを的確に考えて、犬山市民の観光に対するオーセンティックなまちづくりに対する理解度が高いということを市民に感謝したいと思っています。この会議がそういう市民に支えられた、これが

らの計画であり続けて欲しいということとともに、報告とさせていただきます。

事務局

ありがとうございました。

では続いて服部委員には総括表をおめくりいただいてチャレンジする施策32、城下町ストリートの特徴を出す民間団体犬山フルまちミュージアム実行委員会による活動についてご紹介をお願いいたします。

服部委員

ここに犬山フルまちミュージアムってありますが、この観光戦略を作るときに、犬山は本当にもう本質的な価値が理解され、市民文化が歴史的に育まれてきてるんだけど、最近文化とか芸術といえるものを発信したり、見たりっていう場所が犬山には足りないんじゃないかと。本来そういう場所だというのがあって、文化の発信拠点という取り組みをもっとやるべきだと申し上げ、犬山在住で探してみるとたくさんいらっしゃって、なかなか面白い経験されて全国的に活動されてるクリエイターやアーティストが犬山に住まれているということで声をかけさせていただいて、緩やかな集まりということでフルまちミュージアム実行委員会を立ち上げ、すぐに固定的なミュージアムをつくれるわけじゃないんですけども、神出鬼没で時間未定・場所不定のミュージアムということで、毎年どこかで何かやるということをやっています。

1年目となる3年前はまさに観光庁から補助をいただきまして、今の城下町の下本町にある古いビルでヒップホップのコンサートとか、アートクラフトのワークショップとか、結構大々的にやらせてもらったんですけど、2年目からはもう少し地道な活動を続けていこうということになっています。

昨年度から日本モンキーセンターの方と縁をいただきまして、モンキーセンターの中にある価値を掘り起こしていこうという取り組みをしています。

今年の取り組みではお配りしましたが、若い太陽の塔とそれを取り上げたトークイベントです。若い太陽の塔自体はモンキーパークの方にある塔で、あまり知られてないんですがこの若い太陽の塔は一番最初はモンキーセンターの場所にあり、モンキーセンターに約8ヶ月建っていました。取り壊されてそのあと5年後になって今の場所に再建されているということもありまして、一番最初にあったモンキーセンターというのはまさに万博の前の年、岡本太郎先生に太陽の塔のもう少し若い版を作ってくれと名鉄さんがお願いされて今のモンキーセンターの場所に立ち上がったというものです。モンキーセンターで立ち上がった若い太陽の塔というのを題材にして、岡本太郎が考えた原始芸術ですけど、まさに縄文とかもっと古い時代の原始の芸術に非常にパッションに爆発があるというご意見なんですけど、なぜ人が芸術を作るのかというのは類人猿の研究から芸術人類学ということで、サルの研究と芸術研究と交差点がある

ということもあって岡本先生・霊長類・若い太陽の塔というのをテーマにしたそれぞれの専門家のトークイベントとそれに絡めた若い太陽の塔の歴史、そこに込められた意味というのを展示する展覧会をいうのを一月半やって、11月1日に、トークイベント。それとモンキーセンターにはないモンキーパークの若い太陽の塔をどこから見られるかというビューポイントを見て歩くというエクスカーションのイベントを企画しており、今年は国際芸術界「あいち 2025」の年でもあり、その関連ということで位置付けていただきまして、10月から11月にかけてありますので、ぜひ足を運んでいただければと思います。

事務局

ありがとうございます。

それでは観光課が主体となって取り組んできた内容に関しては、次の資料、資料4で説明させていただきますので、こちらの資料をご覧ください。

(事務局説明)

西村会長

ありがとうございました。

これからご意見をいただきますが、まずは今の説明に質問があればと思いますがいかがでしょうか。

それでは自由にご意見をいただくということになりますが、先ほど石田委員と服部委員から追加説明として報告いただきましたけど、まず石田委員からワンラウンド回って、あとはフリーでやりましょう。

石田委員

観光戦略は非常に出来が良くて全国どこへ出しても恥ずかしくないとは思っていますが、資料を作るだけでは全然意味ありません。私も行政の経験がありますけど、行政は資料を作るだけで仕事やっみたいになるんです。だから、こういう会議でも本音を出し合って議論して肉付けしていかないとダメな気がします。最初にちょっと嫌なことを言います。僕がこの会議に出席させていただいているのは、犬山祭保存会会長としての立場なので犬山祭に特化して話させてもらおうと、犬山祭こそ西村先生のリーダーシップなんですけど、ユネスコの無形文化遺産なんです。これは犬山城も如庵も国宝で堂々たるものですが、ユネスコの無形文化遺産はグローバリズムの中に入っていくんです。祭りという極めてローカルな文化がユネスコという、グローバリズムの中へ入っていったのは、これは極めてブランド力があり、そして犬山人として、しかも無形ですから、祭りを継続してきた市民に与えられた称号です。だからもう少し誇っていいと思ってるんです。その立場から言うと、犬山祭の最大の特徴は、それこそ世界にないオンリーワンはからくり人形なんです。からくり人形は言うまでもありませんが、歌舞伎や人形浄瑠璃と同じような、江戸文化の極致な

んです。歌舞伎は江戸を中心に、人形浄瑠璃は難波を中心に、からくりは愛知県が宝庫なんです。その中でも断トツでレベルが高く、数が多いのは犬山のからくり人形なんです。これを犬山の観光戦略として出してほしい。このからくり人形を支えるのは玉屋庄兵衛です。江戸時代から名古屋に来て、私が市長のときに犬山市に工房を作って、九代目の玉屋さんが工房で今やっとするわけです。僕はこの間、この玉屋庄兵衛を犬山の名誉市民にしたらどうだという案を出したんです。玉屋庄兵衛は世界中回ってますけど、ヨーロッパやアメリカでも国賓扱いなんです。それこそ唯一無二の存在ですから。木の文化と日本の文化を典型として、非常に精緻な文化を作ってる。これは犬山の名誉市民に値する。商工会議所の高橋会頭に相談し、犬山市の各種団体の賛同を得て名誉市民にするには市民運動で盛り上げていけばいいと思って、市民の団体の10団体ぐらいの賛同を得て請願を作り、玉屋さんの世界的な履歴書を全部添付して市役所へ提出しました。そうしたら対象にならないということになった。理由が何かと言ったら金曜日や土曜日に市から日当を払って工房へ来ていることは名誉市民の対象にはならないと言った。パートの職員並みの考え方なんです。玉屋のからくりという世界で唯一の存在を、そして犬山の小学校や中学校で子ども達に教えてる。犬山のために貢献してる。どこの町でも、からくりのあるところは玉屋を待望している存在でありながらね。議員さん2人おられるから議場でやってもらいたいけど、こんな馬鹿な話はない。まさに僕はマニュアル通りの官僚主導の判断以外の何物でもない。こんなことで犬山の文化観光ができるかと怒れてきたけど、この年であまり怒るのもいかんと我慢してきましたけど、笑い出すぐらい判断が悪い。玉屋さん本人が私の所へ来て非常に不満を言っていました。これは犬山の文化による観光まちづくりとしては、何回でもキーワードとして言いますけどオーセンティックな犬山の観光づくりとしては恥ずかしい。以上です。

西村会長

何かご意見ありますか。

私から質問ですけど、そのからくりを具体的にお祭りの中で見せるような場やスペースはあるんですか？

石田委員

犬山祭は神事ですから、針綱神社に向かって奉納するのを観光客は非常に珍しがります。もう1つはお囃子です。犬山のからくりのお囃子は全部能管を使うんです。日本の祭りはほとんど草笛です。ところが能管を使うのがきちっとした都会の武家社会の音楽なんです。これがしっかりと残っています。犬山の祭りのお囃子は極めて正統派です。日本の音楽は西洋音楽とは根本的に違って素晴らしいオンリーワンのお囃子があります。もう1つ、犬山の観光戦略で一番大事なのはいかに名鉄と組むかです。僕の個人的な見解では申し訳ないで

すけど、犬山はいかに名古屋鉄道と組むかということで当時名古屋鉄道の社長の谷口清太郎さんに名誉市民になってもらいました。だから、私は豊田市とトヨタ自動車みたいな関係、犬山市と名古屋鉄道というのは名実ともに誰が見ても目的を一緒にしてるというくらい。特にこの頃、名古屋鉄道さんの広報が非常にこの犬山を応援していただけるみたいで、これは犬山市民も名古屋鉄道に感謝するような気持ちを醸成しないかなと思います。そういう意味で玉屋というテーマについて、そういう苦言をこういう場で言てかないと。あまり調子の良い話ばかりですから。

久世委員

名誉市民だと、市民なのでちょっとに弱いと思ったんですけど、僕もよく若い子たちに、玉屋さんってすごい人がいて祇園祭のカマキリのからくりだって作ってるという話をすると、そんな人いるんですかと言われるんです。なので、人間国宝みたいな、市の無形文化財とか、もうちょっと特徴や格の出るのがないのかなと。どちらかと言ってそちらの方がキャラがはっきりしているのかなと思って、名誉市民はちょっと弱いかなという気はします。今は映画の「国宝」も上映していて。

西村会長

何か検証する方法はないかというのを宿題として考えてもらおうと。
では名鉄と組むという点も踏まえて太田委員どうぞ。

太田部長

今日から参加させていただいております名古屋鉄道の太田でございます。4月より地域連携部長として着任させていただいております。我々として取り組んでいることとしてはDXの波に乗って今まではなんとなく増えたとか、外国人が増えてきた、台湾人も増えているという感覚だけでモノを語るところがあったのですが、今は色々なツールがあるので今年度から位置情報データの分析をかけて、誰が来ているのか、何時間いるのか、どこから来ているのかということ、我々の取り組みとして分析をしようということで進めています。具体的には今ほとんどの方がスマートフォンを使っていると思いますので、アプリを活用しています。そのアプリの位置データから読み取ることで分析しております。来週の会議で犬山のプレゼンをしないといけないので分析をしたところで、国内は圧倒的に愛知県や岐阜県が多く、近くでは関西が多い。次には東京から来てる人が多いということが出ました。あとは静岡というデータが出てきて次は大阪が多い。そういうデータで改めて分かることってあるっていうのを感じてるところでございます。2007年からは犬山市さんと一緒に犬山キャンペーンをさせていただいて、どんどん認知がこのエリアで上がってきてると思うんですが、先ほどもこの資料でCo-machi観光として取り上げていただいております、犬山でのプロモーションをずっと続けてきてそれを関東や関西でもプ

ロモーションしていますが、犬山だけだと認知としてどこというのがありますから、名古屋から 30 分以内で行ける場所というような取り方で、今このようなプロモーションを開始させていただいております。今は渋谷のビジョンで名古屋に行こうという最後あたりで犬山の画像を出たりして、私鉄さんとの繋がりで相互宣伝の取り組みをさせていただいているところです。今は愛知県や岐阜県の認知がすごく上がっていると思うので、ここから広域にどうやって呼び込むかっていうことは一緒にいろいろさせていただければと思っていますし、そのツールは何がいいのか。出来れば電車を利用していただいて交通渋滞を解消するため公共交通で来てほしい。今は広域から来る人でも 55% ぐらいが車で関東からでも車で来ていますから、電車でアクセスがいいということを宣伝していきたいと思っています。そうするとお城と城下町だけになってしまうのでそこをどう広く、泊まってもらって長く滞在してもらえるかということを一生懸命取り組んでいるところです。こういう会議などで皆様から意見をいただきながら名古屋鉄道グループ一体となることができることを考えていきたいと思っています。

石田委員

桃太郎神社は名鉄の土地がいっぱいあるでしょ。ものすごい資源があると思うんです。駅も商工会議所が犬山遊園駅じゃなくて桃太郎駅にしようと市民運動を展開しているから、桃太郎公園・桃太郎神社のエリアをと重点的に考えていただきたいです。

太田委員

ご相談させてください。

アートに力を入れようということは名鉄のトップも思っているところで、遊園駅にオブジェを作っていますけどそれ今止まってしまって、岡本太郎先生の像もなかなか PR が難しく。

石田委員

桃太郎神社は研究しましたが、あんな神社は日本中ないですよ。コンクリートで鳥居やいろいろなものも作ってあるからね。

西村会長

ありがとうございます。

次に観光協会の岡田委員。

岡田委員

観光協会はどちらかというと黒子です。ほとんどが観光課と行動をともにしてる。だから今日の会議資料を見させていただくと観光協会として絡んでいるかなと思うんですけど、今ある宿泊者を増やしようっていう目的を持ってきたこともうクリアしてしまう。今度 AB ホテルが出来ればもう少し増えるかなというところ。だからもっと高い目標値を出しましょうとか、そうは言っ

も犬山城は最高の入場者数となっている。だけど、観光客というと犬山城は木で出来ているから、木がすり減ってしまう。だからどこまで観光客を受け入れるというのもあるでしょうし、観光協会の立場から言わせていただくと、人数が非常に少ない。雇用している人の数は300人に及ぶのですが、この人たちは犬山城や駐車場の管理をやったり、自販機や観光案内の管理をやったりというような仕事の流れの中で、観光協会として一番の強みは何かと考えるとやっぱりPRかなど。今年も時津風部屋の朝食ツアーであったり、朝食付きで宿泊者数も増やすようなイベントのお手伝いをさせていただいたり。だから現状でいうと、今の観光協会自体は、黒子かなという気がしています。誰が表に出ようが、来ようが、犬山市が観光で潤えばいいなという究極的な目的に向かっていけばいろんな方たちの協力を得ながらやっていく。その中でリードしていれば良いというのが今の観光協会の現状です。今後はいろんなコンテンツとして有名グラフィックデザイナーが、犬山と絡んでいくという話で、観光協会、犬山市だけで進めていける話ではないから、名鉄さんも主体的に取り組んでくださいというお話であったりしますので、おかげさまでネタは名古屋場所の時津風部屋の話が出てきたりとかもありますし、いろんなところでチャンスがあれば、例えば犬山城だけじゃなくて犬山城と明治村がコラボできないか、リトルで何かできないかというようなネタの発掘グループとしても、今後活動していくんじゃないかなと思っております。あとは名誉市民について言えば、私はソフトバンクの宮川社長になっていただくべきじゃないかなと。玉屋さんも重要なファクターかもしれませんが、私は個人的には宮川君。将来的には犬山に戻って住むよという話も聞いていますので、

西村会長

はい、ありがとうございます。
では、柴田委員。

柴田委員

持続可能なまちづくりにおける観光まちづくりの根幹っていうのは、観光客のための観光施策ではなくて、市民住民が誇りを持てるまちづくりが土台にあるって市民も楽しめる観光施策で、子供たちが楽しめる観光施策が必要じゃないかということはこの会議でずっとお話しさせていただいております。そういった中でロングラン花火と宵のいぬやマルシェなんかは素晴らしいと思いますし、服部委員のフルまち、犬山城みらいサポーターなども取り組んでいますし、河畔 de カタリーヴァ、先ほど石田さんがおっしゃったからくり町巡りですね、からくりとか犬山祭に子ども達が触れる、その子たちがこれからこの犬山の土台をずっと支えていってもらえると思いますんで、子ども達に視点を当てた観光施策も重要じゃないかなと考えてます。

西村会長

ありがとうございます。

では次に久世委員。

久世委員

2つあるんですけど、1つ目が、よく言われる IP です。コンテンツというか、知的財産やキャラクターもそうなんですけど、知的財産の価値を持つものという意味でよく IP と言われるんですけど、最近はまだ IP に人が寄せられる。例えば今は鬼滅の刃ってとんでもない興行収入を出してますし、大阪万博は6回ぐらい行っているんですけど、グッズの売り方が半端じゃないんです。売れているほとんどがミャクミャクの関連グッズです。それと大阪と掛け合わせたものが売れている。ブランドでもそうなんですけど、有名お菓子店とミャクミャクのコラボとか。大阪だけのお土産のコーナーとか、店もあるんですけど、残念ながらあまり売れてないんです。だからその IP の持つ強さというのがすごく実感できる場所でした。犬山の持つ IP は何かというと、犬山城がまずあるぐらいかなと。その次に強いものは、もしかしたら犬山城を超えるかもしれない強いものは岡本太郎さんだと思うんです。だから服部先生の取り組みは本当に素晴らしいなと。万博ともずっと絡みがあるけども、今年は犬山で何もやってないじゃないですか。これが本当に残念なんです。鬼滅の刃で聖地が明治村にあるにも関わらず何もやれていないというのが本当に悔しくて、赤十字病院など聖地巡礼している人がいるけど市としては推せてないという弱さがある。最近の僕の感覚だと SNS で見て動く人と、あとテレビやマスメディアを見てあまり動かない人がすごく二極化してる気がするんです。店に万博グッズを結構置いてるんですけど反応する人が多いんですよ。かばん見ると、ミャクミャクのぬいぐるみがぶら下がったりとかで、大阪の方だと聞いたら大阪の近くで、万博に明日行きますとか、会話が盛り上がったりするんで、動く人は結構広域で動いてるけど、テレビを見てるというよりはどっちかっていうとやっぱり SNS を見て動いてるというところの特徴がすごく出てきてる気がするんで、やっぱり SNS、特にショート動画でのアプローチを犬山は意識的にはできてないかな。ドローンの綺麗な映像は悪くないんだけど、個性があるかといったらトリガーにはならないかな。クリエイターの方でも若い10代の方が多分得意なんです。そういう方を招いて、面白おかしくやっていければ多分だんだん出てくると思うんで、そういうキャンペーンの視点を変えてやっていった欲しいというのが2つ目の意見です。

西村会長

ありがとうございました。

次に河治委員。

河治委員

4月からの愛知県の観光コンベンション局観光推進監になりました河治です。私からは観光戦略も KPI が立てられており愛知県の傾向をお話しながら、

感想をお話したいと思います。KPI の状況一覧表を見させていただきますと、概ね達成に向けて順調に、取組が進んでいる項目が非常に多いと感じました。愛知県もいろんな観光地で調査をしたり、セントレアで聞き取り調査とか、あと観光庁の統計も使いながら、分析をしているんですけども。愛知県と犬山市さんの状況と傾向がほぼ同じで、観光消費額や観光客の入り込み者数、宿泊者数が概ね目標に向けて到達されていると思います。また満足度も愛知県でも上がってきていて、いろいろ充実してきたというふうに思うんですが愛知県は実は我々の統計で非常に問題がある統計データがありまして、愛知県の観光を他の人に推奨したいかという県民調査をやっているんですけど、昨年の結果は愛知県の観光を推奨したい人はわずか 17.6%という結果でございました。これは強く推奨するっていうランクの人たちが 17.6%で、何となくと回答した人を入れればもう少しありますが、そこが非常に課題感を持っていまして、犬山市さんの取組を見させていただきましたが市民の方のための観光施策というところに、大分力を入れられていいなというふうに思い、市民の方が自分たちのまちをいいところだと心から感じていただける、そういうところを犬山市さんの施策を見ながら愛知県も取り組んでいきたいなと思いました。あとはオーバーツーリズムも全国的に問題となっていますので、愛知県としても観光事業の平準化で、県民ホリデーや県民の日や学校ホリデーとか、いろんなことをやりながら平準化して、なるべく土日に人が集中しないようなこともやっていきたいと思っております。また、愛知県でも 9 月に世界的なツーリズム EXPO ジャパンという、世界有数の旅行の祭典が初めて Aichi sky EXPO で開催されることが決まり、犬山市さんも観光協会さんと一緒に出展していただきますので、国内の方だけじゃなく、国外の方にも、一緒になって我々も一生懸命にやっていきたいと思っております。

西村会長

ありがとうございます。それでは高橋委員。

高橋委員

商工会議所の高橋です。まず、名誉市民は残念な結果になりましたけど、よく考えると、城下町対それ以外、楽田、羽黒、塔野地。この対立が数でいうと城下町は負けています。城下町が引っ張ってきたんで城下町はプライドも高いし、今まで犬山を俺らが宣伝してきたという自負もありますから今回は残念でしたけど、私が見ている感じは、城下町対その他の地域という構図が見えてしまっています。ですので、玉屋庄兵衛さんのことは知っていても、別に応援しないっていう人が多いので、時間かけて宣伝したらどうかと思います。私も若い頃から玉屋さんにはお世話になっているので、何とか叶うといいなと思っております。それから、名鉄さんとの協力ですけど、宣伝を見ていたら分かるんですが瀬戸、半田、それから岐阜。今までテレビを点ければ犬山の宣伝しかし

なかったのに、突然いろんな、エモーションと言いつつ宣伝をし始めました。少し危機を感じて、今度は実は9月8日に名鉄さんと商工会議所の代表で懇談会を催す企画をしておりますので強く犬山プッシュをしたいと思います。ちょっと冗談は置いて、名鉄さんは本当に木曽川を活用して、先ほどの資料の通りで木曽川沿いがキレイになるので、その辺と同時にもう少し考えていただき、一緒にやってきたいなというふうに思っております。もちろん駅名も全部直すとお金がかかるのも分かってますので、本気じゃなくていいんです。仮称や通称で結構ですので、何とか桃太郎駅を実現したいなと。これは3年ぐらい話していますので、よろしくお願ひしたいと思います。ちょっとでも振り向いてもらいたく、商工会議所はモモちゃんというのを作りました。桃ちゃんは実は女の子ということで、そういうストーリー作って、桃ちゃんシリーズできました。我々も観光協会さんに気を遣いながら進めたもんですから、わん丸君がいるのに、桃ちゃん作っちゃったんです。非常に遠慮しながら我々も活動してるもんですから、とりあえず法的なものは全部モモちゃん押さえました。これからようやく活動し出すときだと思います。わん丸君もゆるキャラとして、大分年をとりまして、疲れておりますので一緒になって盛り上げたいです。それから、食材の件で地産地消的な発表データがございましたが、犬山商工会議所といたしまして、地産地消の消を^{あきない}商という文字に変えて、犬山の企業さんには外にお金を行かないように、なるべく内輪でお金が落ちるようにご協力くださいということで、地産地商プロジェクトを始めています。インディゴさんに入りたいとかあると思いますけども、それなりに出入りの業者も勉強するような施策もしておりますので、何とか犬山で完結するというような商売を目指しております。

若い太陽の塔、ずっと誰も存在を忘れてしまって、それで当時の名鉄の偉い方に、犬山駅前西口に置けないですかと私は言ったことがあります。やっぱりNHKのタローマンは視聴率いいもんですから。財産だと思うんですけど、名鉄さんに、犬山駅前のロータリーとかちょうど大きさいいなっていう。夜もライトアップして、出番がそういう形であってもいいかなと、10年前ぐらいのことを思い出しました。

西村委員

面白いですね。

若い太陽の塔は文化財だったんですね。ありがとうございます。

服部委員

若い太陽の塔が話題になって良かったです。これから犬山のアイコンとしてひとつ注目していく必要があるかなと思います。それと横尾さんは岡本太郎の最初の展覧会の方の図録のデザインとして、あの辺の人たちがかなり関係して、当時の日本の現代アートを推進していた人たちが犬山に縁を持っていると

いうところはぜひきちっと踏まえて、犬山の中でアートというのをどう展開していくのか、根拠付けたりしながら、犬山の中でアートを引き受けていく土壌づくりをしっかりと準備していかなければならないと思います。その一つが太陽の塔だと思うので、太陽の塔がどう生まれて、どう今は設えているのか。2000年に入って修復していますけどだいぶ傷んできていますので、この傷みつつある若い太陽の塔を市民の力を使って維持管理しながら未来へつなげていくことを是非やりながらうまく生かしていく。岡本太郎が作った若い太陽の塔を未来に繋げていく。生まれた経緯も含めて、あれはまさに、50年前の万博のプレイベントとして作ったわけですけど、犬山がずっと名鉄さん中心に博覧会をかなりやってきた。特に戦後犬山の復興。観光事業の一番最初に名鉄さんが作られて犬山遊園地があって、荒廃した犬山遊園地を復活させるために1940年代に子供博覧会。そのあと、世界風俗博覧会、映画博覧会などどんどん博覧会を開いて毎年30万人50万人と人を集めてそれをきっかけにラインパークができて明治村を作ってリトルワールドという観光地としての展開がある。犬山の観光を紐解くと名鉄さん中心に、郊外型の観光地をどう作っていくのかっていうことで、かなり文化度の高い観光まちづくりをしていて、社長が中心になって錚々たるメンバーが関わっています。明治村を造るときは同級生だった谷口吉郎先生（博物館明治村初代館長）。その前もモンキーパークを作るときは今西錦司先生、その前の犬山自然公園のときには、田村剛先生という国定公園の策定運動を日本で展開された造園学者です。この田村剛先生があそこのマスタープランを書いているんです。なかなか面白いマスタープランで田村剛先生も関わっている。もっと前に行くと篠田進っていう建築家が、犬山遊園地の彩雲閣っていう、和風旅館があったのですが、篠田進先生が設計されていて、彼はそのあと御園座とかを設計されていて、犬山遊園の駅の前前の駅も篠田進先生が作られているということで戦前から戦後にかけて犬山は土川さん（元名古屋鉄道株式会社会長）を中心にして錚々たる文化人を集めてやって、それが犬山の財産になっている。それが今、十分生かし切れているのかということを再度見直しながら、校外化されているので今言えば中心になってやっている城下町中心の3構想、テーマパーク型の観光は少しかいになっていますけれど、何かうまくつなげられて双方向で人が動いていく形を作りながら、我々も城下町とモンキーセンターをつなげる活動をやっていますけども、そういう歴史を紐解きながら是非やっていっていただきたいし、我々もやっていきたいと思っています。そのひとつとして、犬山遊園駅があって木曽川があって犬山橋の反対側にこんもりとした山があります。城山という山なんですけど、昔はそこに城山荘という有名旅館が1980年代ぐらいまでは営業しています。城山荘の思い出がある人がいっぱいいて、トンネルがあって木曽川の川面にテラスが突き出していて、そこに観光客が来ていた姿が見えたんですけど、せっかく木曽川を

生かした観光地づくりを考えたときに鶴飼もあって屋形船も出ている。昔は城山の方に屋形船が入って、ライン下りと連携していたという歴史もあると思うんですけど、長いこと城山荘が廃墟になって放置されている。せっかく犬山城から見た対岸側、景観があって歴史的に大変重要な場所なんですけども、逆に各務原側から見ると、犬山城がしっかり見えて犬山全体の観光地が一番よく見えるすばらしい景観地。城山荘をいかに活かすか、それが犬山観光にとって大事なビューポイントだと思っています。いろいろ裁判沙汰になったり 20～30 年活用出来なかったんですけど、各務原市で裁判沙汰がようやく去年落ち着かれて城山荘が活用できるような状態になってきたということでもあって、私は各務原市の都市マスタープランもやっているんですけどそこで少し話題になっていてあそこを観光文化、景観の拠点にしてどう生かすかということを、各務原市の方でも議論していきましようという話をやってるんですが、各務原市だけで議論すべき場所じゃなくて、やはり犬山と各務原が連携してあの場所をどう生かすかということを真面目にやっていただきたい。それは鶴飼とか木曽川観光もかなり密接に関わってくる重要な場所だと思っていますので城山の話も課題として一つ取り組んでいただきたいと思います。

最後に犬山祭の話なんですけども、去年素晴らしい取り組みだなと思ったのが宵祭。犬山祭は観光客がどんどん増えてきて、市民としては祭に出かけていくのが大変だなという状況になるけど、宵祭をやっていただいて夜中に車山を巡りながら、静かにライトアップされた車山を見る機会が設けられたのは大変ありがたいことだなと。市民にとっての祭、市民にとっての観光地っていうのは、どう生かしていくか、すごく大きな課題で市民が愛していない観光地っていうのが、観光客にとって本当に意味があるか、楽しいかというふうに思うので、市民と離れないような形でいるのがよく、そういう意味で宵祭は大変素晴らしいと思いますよ。京都の祇園祭もありますけど、そこまでやろうとすると市民としてはそれぞれの車山の町内が大変で、郡上の踊りも全国のサポーターを集めて運営を 1 ヶ月間やっているっていうこともあって、犬山祭も町内だけではなくてサポーターの力で本祭だけではなくて宵祭も含めて、からくりが見られるとか車山を近くで見られるとか、からくり人形が近くで見られるとか、町内の様子が少し分かるとか、そういう形で宵祭を上手く活かして、市民に近い形でお祭りが賑わってくるんじゃないかなと思います。単に観光客が増えているだけが目的じゃなくて、市民にとって良い観光地になるかということを改めて考える必要かなと思います。

西村会長

ありがとうございます。私も事務局に伺いたいのですが、先ほど城下町と城下町以外のところの性格の違いってありましたけど、犬山旅ってすごくいい企画だなと思うんですけど、うまく中に入っているんですか。

事務局	犬山旅はですね、もともと観光課サイドの発信ではなくて、今お話いただいた赤塚先生の協力をいただいて作成しました。歴史まちづくり課と観光課との連携の足りなさではございますので、ご指摘の通り、非常にクオリティの高い冊子なので、そういったところはもっと打ち出していく必要があります。具体的には、よく目に触れる観光案内所だとか、そういうところで。
西村会長	ばら撒いて目に触れるんです。是非とも必要だと思います。
事務局	そうですね。文化観光というのは、我々の命題です。
西村会長	私でも犬山観光を調査しているんですけど、それぞれの地域でかなり特色があるんですよね。善師野にしても楽田にしても今井なんかもね。栗栖なんかは特別ですけど。それぞれ性格が違いうし非常にアイデンティがあって、正にオーセンティックなんです。犬山は市街地がそんなに大きくなく合併もしてないんで、ブドウの房みたいいろいろなものがあって、その中に城下町もあるみたいに、市民の方が思ってもらえると対立じゃなくて、お互いがいいんだと、お互い違うものがあるんだと。お互いのところでしっかりやっていけばいい。そういうふうにことがうまくやれると、全体としてのレベルが上がって広域になるので、あんまりお城とか本町通りだけとかならずに済むじゃないかなと思いました。それが1点。それから城山荘だけど、木曽川中流域は岐阜県が頑張っているんですけど、岐阜県はもう1回ライン下りみたいなものを再生したいと。ところが川底の関係が分からなくなっているんで、きちんと調査をして、何が出来るか調べたいということをやっているんですよ。そういう中に位置付けて、それこそ県レベルのすごいプロジェクトにしてもらって面白いことに、岐阜県はすごく頑張っているんですけど、一番の目玉は近隣ですね。犬山のお客さんをどこまで回すかみたいなことなので。ところがここだけ愛知県で情報がうまく共有されてない感じがするので、木曽川で展開出来るといい。
高橋委員	木曽川景観協議会というのを各務原市と犬山市で、協力して立ち上げたものがあったもう何年もやっていますけども、この中で城山荘の報告がありまして、これからだと思えますね。
岡田委員	境界線で揉めて、その地主さんと市が。それがまとまったと言って、これから動きましょうというスタートラインみたいな。

石田委員

これは岐阜県前知事がDMOという構想を梅川先生を呼んでやりかけた。僕も当然木曽川観光として構想に飛びついたんですけど、はっきり言って岐阜県が当時は古田知事のときにやって自治体がバラバラです。全然行政が乗ってこないです。特に美濃加茂なんてもう全然、今の各務原でも。はっきり言うとな、僕に副市長クラスが犬山のためになぜやらないかんでしょうと。もう議論のレベルが低いです。もうあんまりこだわってなくて、犬山は単独でね、力付ければ犬山の力を貸してくれというようなスキームにしていけないと、これはいかんと。ここ1年その方向で一生懸命やったんですけどね。もうギブアップです。それから、そもそも犬山の城下町の再生は、西村先生のおかげですから。これで西村哲学をここの戦略会議でね、やっぱり徹底させるのです。当時は1970年代の大阪万博から、経済成長が至上命令、それから流通革命が起きて、城下町なんて壊滅だったんです。それこそ、僕は城下町の中で育って、城下町は全く閉鎖的な人たちがばかりです。もうガンガンに閉鎖的。だけど、その閉鎖性を久世議員のような、突破する人と上手に矛盾適合しているんです、今の状況は。僕は結局この矛盾的統制が岡本太郎じゃないけど、ぶつかり合って爆発する。そういう議論を頻繁にすればいいんじゃないかと。もう1つ、そこに掛けてあるこの地図は黒川紀章さんが僕にヒントを与えてくれたんです。市長室に自分ところの町の航空図を置いて犬山の地理的条件を毎日見ろと。犬山は木曽川と森のまちなんです。霊長研の所長なった河合雅雄さんが森のまちというキャッチフレーズを教えてくれたんですけど、これも潜在力あるんですよ。新しい観光として名鉄がやってくれていることはとても犬山に会う観光戦略ですからね。取り留めないとこを申しましたが、私の思いは、西村哲学を忘れないことです。

西村会長

都市計画道路の廃止をすべきだって、私がすごい言いましたからね。都市計画の人間で都市計画道路廃止しろとなかなか言わないですよ。言うとな自分の仕事が無くなるわけだから、無くなって変わりましたよね。

石田委員

あの頃、日本中で最初にそれ言われたのは西村先生ですからね。それに沿って犬山城下町再生してきましたから。

西村会長

あと私が思ったのは、先ほどからくりの話ありましたが、例えば高山祭のときはからくりを演じるように、公園が広場になるんですね。その時はものすごい人なんです。だから例えば今回の大手門の広場の空間を使って、その日だけは劇場みたいになるように、あそこにちゃんとからくりが演じられるような計画が最初からここが舞台になって、人がこう流れてる、この全体として計画するほうがいいんじゃないかなと思ったんです。つまり高山は昔からの広場を

その日だけは劇場になるわけです。でも、劇場になるために変に余裕あってはダメなので平日は広場なんですけど、お祭りのときにはそこが劇場になるみたいな感じで改修したんですね。なので、折角あそこも今は可能性があるわけだから。そういう空間が何か所かあって人が集まると、からくりにもものすごく目が行くのかなという感じがしました。

石田委員

からくり町巡りを祭礼と別に作ろうとしたことがあって、祭の一番上では見にくいですから。ストーリーもありますから。小さいので何をやっているかわからないところがあるので、そばで見られるようそういう方向で議論してきました。

久世委員

でも宵祭というのは、新しく始めたんですね。

高橋委員

いや、昔やってましたね。

石田委員

車山は必ず警察の方がいるんですよ。大きいからね。警察は基本的にはあまり交通止めしたくないんですよ。昔は平気でやってたんですけど、この頃は警察が厳しくてね、あまり2日の祭り以外に増やしたくないのはあります。

西村会長

なおさらそういう広場でやったら、道路封鎖するわけじゃないんだから。

石田委員

花火はこの頃、大きい花火いろいろ事故起こしてますけど、犬山のロングラン花火は成功。10日間見れますし、相応の人数が1回でやるぐらい来ますし、魅せるイベントも社会状況に合わせて変えてくのも1つの進路ですね。祭りも変えればいい。これ神事ですから、限界がありますけど、神事と切り離して、祭りのパフォーマンスを観光化していくということも大事だなと思います。

西村会長

あともう一つ、古民家のホテルの話ですけど、今は宿泊施設だけ考えてるけれど、やっぱり古民家に泊まる人の泊まり方っていうのは、ホテルに泊まる人と違うんですよ。だからやっぱりそこがすごく重要なんじゃないかなと思ったんです。というのも私は今、國學院大學で若い学生たちと付き合っているくらい連れて行くと泊まるときに彼らはビジネスホテルみたいに泊まるか1人の方がいいのかと思ったんですよ。ところが、違うって言うんですよ。みんなと一緒にワイワイやって、泊まれるところに泊まりたいっていうんですよ。すると古民家一棟貸が一番ベストなんですね。考えてみたら今まで古民家ホテルっていうのを考えるときはその供給側でしか考えてなかったけど、そこでの泊まり方は普通のホテル、ビジネスホテルと全然違う。そういう人たちに来て

もらうみたいな。つまり古民家ホテルっていうのが提供する夜の過ごし方のスタイルみたいなものから考えてみると、すごくイメージが湧くんじゃないかと思うんですね。空き家は日本中あるので、可能性はよくあるわけですよ。だからそういうことかなと思いました。もう1つは吉田初三郎ね。やっぱりファンが多いと思うんです。彼がずっとここに工房を持っていたというのがやっぱりすごく大きいわけですよ。彼が書いて自分たちのオフィスもあるような木曽川の俯瞰図があるんですよね。ああいうのはまさに新ゴールにして、犬山のシンボルして、吉田初三郎が愛した街とかね。そういう、例えばテーマ、次のフルまちとかでいいんじゃないでしょうか。そういう感じで幾つもテーマが立ちそうな感じするんですよね。

高橋委員

今年ちょうど寂光院さんが研修館の建物を綺麗にされたんですよ。そこにオリジナルの鳥瞰図が入ります。印刷物じゃなく一番でかいやつ。

西村会長

そういうところで、多様に広がると思うんですよね。KPI もいいけど、もう1回このクオリティを上げるというところも1つ必要かなということですね。

岡田委員

桜の名所エリアなんです。インディゴの前の桜がもう寿命じゃないかな。犬山遊園駅に向かう踏切の両サイドに桜が10本ぐらいあったんですけど、寿命が来て全部切れちゃった。その後、植え付ける計画も聞かず、木曽川の遊歩道あたりが本当に綺麗な桜が咲くんですけど、もうかなり寿命が来ている。そういう部分でいうと、桜の名所をもう1回種つけからやってかないと、桜が犬山からなくなっちゃう。それがすごく残念。木曽川だけじゃなくって、郷瀬川沿いだってそうだし、犬山には、せっかく桜の名所があって、犬山音頭にも入っているのに、大口に取られちゃっている。だから、考えてください。

西村会長

はい、ありがとうございます。

何か事務局の方からこれは聞いておきたいとかありませんか。

事務局

内田の河畔にある桜については、かわまちづくり計画を作って、計画の中にはまだ結論は入ってないです。ただ、桜の老木化の問題は書いてあります。岡田委員がおっしゃる通り、寿命が来ているというところで10年先、15年先、このまま存続はできないので、植替か伐採かというところは住民の皆さんにもお話を聞きながら、丁寧にここ1年とかで決めていかなければいけないと思っています。犬山市全体でよく聞いているのが、道路管理の部署だと道路沿いに桜がたくさん生えているんですが、最近老木化によって枝が落ちて走ってる車にぶつかって裁判沙汰になって補償することが見られるようになって道路

管理者側で言うと桜は切っていきたい意向のようです。一方で犬山は桜の名所ですから、どうしていけばいいのかなというのが犬山市全体の課題ではあると思ってます。観光サイドはもっと桜を植えたいという思いもありますし、施設管理者は安全上の懸念があるところですので、またこういった場でもいいお知恵があれば、お聞きできたらと思います。

久世委員

桜に関して僕、議会で一番やかましく残せと言ってた方なんですけど、ただその道路の問題も実際あって、事故も起きているんです。市としては道路とか人の歩くところはできるだけ安全性で、あとは善光寺山とかそういうところで、さっきの集中的にという方向性だったはずだけど、いまいち上手くいってないような。

事務局

善光寺山は一生懸命やってたんですけど、結果的に残念ながら根付かず花が咲かなかったということがあります。ただ、考え方としては公園とかまとまった場所に集中的に桜を植えて、みんなで育ててそこを桜の名所にする、パーキングも併設するなど手当が必要ですけど、そういう方向なのかなという気はしています。なので、城下町周辺部、もしくは離れたところに桜パークみたいなものを作ると、名所というか犬山は桜だねというのが存続できると思いますので、いい場所あったら皆さん教えてください。

久世委員

かわまちの中でもある程度決まっているのかなと思ったんですけど、そこは決まっていないですか。

事務局

かわまちは内田と栗栖を対象としていますから、桜についての記述は薄いんですね。やっぱり候補地がまだ定まってないと候補地の地域の方の話というのは絶対に聞いていかなければいけないので、その辺りの手順も必要だなというところで、危機感と、今後どうしてという課題感はかわまち計画の中で共有して、特に内田はどうするんだっていうのはもう喫緊の課題というか決めなければいけないもんですから、ここ 1 年ぐらいで決めることになると思います。

石田委員

僕は花に関してはいろいろ意見があった。桜って日本人の一番思い出のある花かもしれないけど、犬山で一番特徴的なのはヒトツバタゴ。木曽川沿いでしか残ってない。しかも犬山に自生地がありまして、木曽川沿いと長崎県の津島しかないんです。これを犬山の花にしろという意見はすごくあったんですよ。もう 1 つはハナモモを植える市民運動をやった人もいます。それからもう 1 つはハナミズキ。でもこれは統一するのは中々難しい。僕は犬山の特徴の花

と言ったらヒトツバタゴと思う。数少ないしコンセンサスを得るのは難しいけど。

西村会長

1つに縛らなくてもいいかもしれないけど、例えば桜っていろんな種類があるから、山桜などは寿命が長いですから状況が変わってくる。その辺をきちんとどこかで議論しないといけないですね。

事務局

余談ですが前に木曽川中流域の会議がありまして、この流域でちゃんと勝負できるものをみんなで統一の見解で始めないと、それぞれ小出しにそれぞれがイベントやっても全国から人が来ないと。この流域に来たらこの時期に花が一斉に咲いて楽しめるどこにも負けないものを作れば人が来るから、それが1つ花というのは可能性があるというのを仰ってたんですけど道のりは長いですが、広域連携っていうのも1つのアイテムとして、花っていうのはあるのかなと思いました。

西村会長

広域連携でやるのは、市全体でこうやるのは難しいけど、例えば木曽川に絞って議論をすれば、木曽川に関連しているところはみんなありますから、川沿いだけは頑張っていますというのはあるかもしれない。

他にいかがでしょうか。出尽くしたようなので、これを宿題として事務局にご検討いただければデータだけじゃないものができる。せっかくいい流れができていますので、ぜひ頑張ってください。それでは事務局にお返しします。

事務局

西村会長ありがとうございました。

会議冒頭にも申し上げましたが、観光戦略が策定してから本市の観光の取り組みにお力添えいただき、本当にありがとうございます。犬山観光の魅力向上と持続可能な観光まちづくりを目標に、今後も様々な施策を展開していけるよう励んでいきます。様々なご意見いただきましたので、しっかり議事録を精査していきたいと思います。

それではこれもちまして、令和7年度観光戦略会議を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。